

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

目次

虫めがね1	2
虫めがね2 活動報告・寄附のお礼	3
賛助会のお詫びと訂正 スケジュール	4
学習会報告 ボランティア募集	5
小野塚連載	6
和栗連載・夕会便り	7
編集後記	8

2011年
5月号

巻頭文

5月からの新緑はきれいです。春爛漫な陽気になりました。

暖かい季節になると、お日様がまぶしくて、たまらなく気持ちいいです。

ゴールデンウィークはみなさんはどのように過ごしますか？

8階レスパイトに入ります。8階の人とお買い物したいです。映画やごはんが楽しみです。

2011年の春 松本恵司

障がい者は外に出ようボランティア募集

来る五月二十二日（日）《予備日五月二十九日》毎年恒例となりました、「障がい者は外に出よう」のボランティアを募集したいと思います。今年は地震の影響もあり目的地を葛西臨海公園から港区周辺に変更しました。一班二名の車椅子障害者と一名の歩行可能な軽度の障害者及び七～八名のボランティアで構成しています。障害者と一緒に散策して談笑して一日を過ごしていただきます。

今現在、バリアフリーになっているとはいっても、まだまだ街には階段が多く、車椅子利用者にとっては不便です。行きたいところにもいけず家に引きこもっている障害者も多いはず。そんな障害者を外に出して見聞を拡げてもらおうと思い始めました、この企画も月日を経て今年で二十八回をむかえました。毎年約百名前後の参加者にご協力いただいています。今年もボランティアさんにご協力願いたいので募集を募ろうとこの場を借りて記事にしました。今年のボランティアの締切は五月の二日、月曜日となっています。ので皆様お誘いのうえ風の子会内「障がい者は、外に出よう」実行委員会までご連絡下さい。その際、連絡先をおたずねしますので、ご了承下さい。（ボランティア保険に加入するため必要になります。尚、この目的意外には一切使用しません）スタッフ一同お待ち申上げています。

尚、ボランティアの締切は、五月二日・障害者は四月三十日となっています。よろしくお祈いします。

実行委員長 三木 直人

虫めがね

～もしも生まれ変わるなら～

信号待ちをしていると、向こう側に見覚えのある懐かしい顔があることに気づく。グリーンシャツにラフなパンツスタイルで、髪は昔のまま適当に一つにまとめている。僕といた頃より少し大人びて見えるが、雰囲気はそのころと変わらない。

「おーい、とも・・・」

呼びかけようとして挙げた手がふと止まる。彼女の隣には、僕の知らない誰かが優しく寄り添っていたのだ。挙げかけた手を下ろし、サングラスをかけ直すと同時に信号が青に変わる。

僕は歩き出す。

彼女も歩き始める。

隣の、僕の知らない誰かと一緒に。

時はいつも前にだけ進む。決して過去には戻らない。僕と彼女の間に何があったとしても、それは結局過去のこと。今の僕には繋がらない。僕は僕の人生を歩んでいて、彼女は彼女の道を進んでいる。その二つが再び交差することは、もしかしたらもうないのかもしれない。でも、彼女といた頃は僕はとても幸せだったし、記憶の中での素敵な思い出だ。今は触れられないものでも、心の中ではいつも温かく、決して忘れてはいけないもの。

彼女は僕に気づかないまま、信号を渡りきる。

僕も、声をかけないまま、信号を渡る。

生まれ変わったら、
こんなシチュエーションを演じてみたい今日この頃・・・

ロマンティック塚



キャリアウーマンになって素敵なオフィスで働きたい。

理想の人と社内であいさつ、お付き合いをしたいなあ～と思う

なかなか、そう上手くは行かないんだけど上手く行ったら良いなと思う。

右田 磨子








今年の5月で50歳になるが、年齢と共に手足の力が抜けてしまい一時、何も出来ず寝たきりになった。最近足が動くようになりパソコンが打てるようになった。



上記の経験からすると二度と障害者に生まれて来たくない。今、又は来世生まれ変われたら健康者になり、仕事は会計士か医療・福祉関係をしなから、困っている人を一人でも多く助けてあげたい。例えば障害者や高齢者の介護をしたり等。今年の三月十一日に東北、関東などで大地震が起き東京でもその日だけで震度五弱が三回も来た。東北地方を中心に関東地方の茨城県などで津波が来たり家が壊れるなどの大震災となった。学校などで避難している人が多くその人々への募金や食料を送ったり現地へボランティアに行き家を建て直しや食料を運んであげたり話し相手など色々したい。

出来ればスーパーマンにドラえもんやポケモンを付けければ世界中を飛び回り何でも出来ていいなあ！！

幸 高史


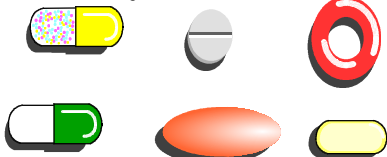
虫めがね

僕の、もしも生まれ変わるならというのは、動物ならば、白鳥や鶴のような鳥になり、大空を翼を広げて羽ばたいてみたいです。というのも、今僕は季節の変わりめで、緊張が強く体の節々が痛いので、そう思うのかもしれませんが。

もう一つは医学博士になり、今までにない薬を発明をしたいです『障害の重い人が軽くなる薬』や『錠剤を服用をしなくても花粉症などの病気を治すもの』などを発明をして、有名人になりたいです。この二つに生まれ変わるのならば、どちらでも良いかなあ・・・。

田中 聡



3月の学習会は計5回。1週目は本来予定
決めだが、ひな祭りが近いということもあつ
てひな祭りのな何かをしようということにな
った。急遽決まったことなので準備すること
もあまりできず、とりあえずお内裏様の烏帽
子に見立てて兜を新聞紙で折ってみんなで被
つてみたり、ひな祭りのな菓子をみんなで食
べたり、甘酒を
作って飲んだ
り、というよう
なことをしてひ
な祭りのな雰
囲気をみんな
で味わって
みました。



2週目。普通土学園の学生が体験ポランテ
イアとして風の子にやってきた。昨年までは
通常作業日に来ていたのだが、今年は学習会
と重なったためにみんなで交流しようという
ことになった。メンバーが企画や工房の仕事
を紹介したり、学
生が学園生活につ
いて話したりし
た。普通土学園は
福祉に対する意識
が強く、様々な福
祉経験を学生がし
ていることに驚い
た。



3週目は2週遅れの予定決め。この日僕は
休んでしまったのでどのような話し合いがな
されたかはわからないが、決まった内容を見
る限りはありきたりなものばかりという印象
が強い。しかも具体的
な詰めの部分がい
ちも多し、せつ
めという時間を
設定して話し
合いをしてい
るのだから
もう少し積極
的に議論に参
加する気持ち
も大事なの
ではないかと
感じた（あく
までも個人的
感想ではある
が）。



4週目。先月日本を襲った
未曾有の大震災について、そ
れぞれに感じたこと、思っ
たことを語り合った。風の子
にいた人達は高浜荘のエレベ
ーターが停まってしまったり、
送迎時の道が大
混雑で車が全く
動かなかつたりなど大変な思
いをしてきたようだ。今後また
このようなことが起きたとき、
風の子としてどうすべきか、
どうあるべきかをみんなで思
案した。それに関連して、
外に出ようについても行
うべきか行わないべきか
議論した。



5週目はビデオ鑑賞。みんなが選んだタイ
トルは、『シュレック』。怪物がお姫様を助け出
して恋に落ちるといふ典型的アドベンチャー
ファンタジーアニメ。ドリームワークスのフ
ルデジタルアニメはクオリティーが高く見応
えもそれなりにあった。しかし学習会とい
う時間を使ってテレビをただ観ているだけと
いうのはいかなるものだろうか。せめて鑑賞
後に感想を言い合うなどしなければ学習会と
いう形にそぐわないのではないかと、と時々思
ってはいるのだが。



小野塚 航

「今回風の子を奉仕先として選んだのは家が近いから、と簡単に決めたのですが良い選択だったと思います。優しい職員の方々や面白くて楽しい利用者の皆様はとてもフレンドリーで緊張もすぐ和らぎました。実際に奉仕としてお手伝いをさせて頂く時も皆さん笑顔で何も苦ではありませんでした。何よりありがとうと言って頂けるとやりがいがありました。何度か奉仕を体験してきましたが風の子が一番楽しかったです。皆様沢山お話し下さってありがとうございました。」

普連土学園 高1 林 麻優美

実習生感想

三月九日に普連土学園から高校一年生の実習生が来て下さいました！

このページでは一日風の子を体験した生徒さんの感想を紹介したいと思います！！



風の子会は和気あいあいとしていてアットホームな雰囲気でも楽しく、あっという間に帰る時間となってしまいました。私はいわゆる障害者の方々とコミュニケーションをとる事が初めてで、皆さんをお迎えに行く時は緊張していたのですが、帰る時には全く疲れはなく逆に元気になって帰ることが出来ました。一日お世話になり本当にありがとうございました。

普連土学園 高1 石丸 瑠美

賛助会のご報告とお礼



日頃、風の子会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。おかげさまで今年も多くの方々に賛助会にご加入いただきました。皆様の暖かいご支援に対し、厚くお礼申し上げます。

賛助会の基金は、本来は長期の計画や、大きな額の資産となるものの購入などに充てるために積み立てるべきものですが、運営財政状況が逼迫しておりますので、昨年度も通常運営費に繰り入れさせていただきました。ここにご報告をさせていただくとともにお礼申し上げます。

賛助会員の方々は次の通りです。充分注意してはおりますが、万一誤りや、漏れがございましたら深くお詫び申し上げますとともに、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

賛助会員ご芳名（平成23年3月31日 現在）50音順

相蘇正義様、東寿司、阿部りょう子様、雨宮蓉子様、飯尾直美様、飯田キエ子様、飯塚潤一様、井口良夫様、市川美江様、市川由紀子様、井出初子様、井出義文様、伊野秀信様、岩田徳五郎様、内田茂様、大野誠様、大野正美様、ゆきみ様、岡竹徹様、岡本和子様、小倉英克様、小野田和子様、小野塚智香子様、金子豊様、金子和子様、金子好守様、神谷和子様、神谷之和様、黒澤フミ様、小久保薫様、小西雅子様、小林高史様、佐々木厚子様、塩崎良子様、島田美登様、鈴木公子様、諏訪敏子様、仙頭邦子様、園部裕干様、高野定雄様、カネ様、滝口雅祥様、立石豪様、田中聡様、田中紀義様、あけみ様、田中マサ子様、谷島イクエ様、司城多喜子様、不二様、中井英代様、長坂富紗子様、長野松男様、中山進様、中山信孝様、長谷川誠様、波多野順治様、栄子様、羽鳥貞子様、原田洋子様、平沼実華様、福島幸子様、福島照行様、松本成子様、真部千代子様、丸毛波津様、三木順子様、右田麿子様、美智子様、美馬貴志様、武藤金一様、森部様、諸角始子様、山形和子様、山岸久雄様、山崎真理子様、山本喜美枝様、湯川揚子様、吉水和男様、吉本道子様、渡部一元様、和田省三様、渡辺さよ子

以上 83名様
匿名の方 7名様。合わせて 90名様
合計 84万8千円

平成23年4月

風の子会・総務部
(担当職員 岡本裕介 03-3474-9674)



特定非営利活動法人「風の子会」 賛助会任意加入のお願い

日頃、風の子会の活動にご理解、ご支援を頂きありがとうございます。おかげさまで風の子会は、「一人ぼっちな障害者をなくそう」のスローガンのもと、活発な活動を続けることができいております。皆様には心より感謝申し上げます。

さて、風の子会は「自立支援法」に基づく運営に移行しています。この制度のもと、従来の仕組みを変えていかなければならないこともいくつかあり、財政的にも厳しい状態が今年度も続いております。私どもも手探りで運営ですが、何とかこの1年を乗り切って参りました。自立支援法はまだいろいろと状況が変わりつつありますので、少しでも良い方向に改正されていくことを望んでおります。

ご承知の方もおいでかと思いますが、風の子会には賛助会という制度があります。これは、ご加入頂いた方から賛助会費を頂き、主に資金面でのご支援をお願いするもので、昭和61年（1986年）より設けられているものです。本来は、車椅子用車両購入や整備、新しい事業などのために資金を積み立てることを目的に設けられたものですが、現状では上記のように財政が逼迫しておりますので、賛助会費は通常の運営費用に組み込ませて頂いております。

すでに多くのご協力を頂いている皆様には重ねてのお願いで恐縮ですが、是非、賛助会の趣旨をご理解の上、新たにご加入下さいますようお願い申し上げます。また現在風の子会の一般会員になっておられる方も、賛助会にもご加入頂けると幸いです。

賛助会会員の方には、風の子会の機関誌「風の子便り」をお送りし、会の活動をご報告いたします。ご加入頂けます方は、同封の振込用紙をご利用頂くか、下記口座へのお振込をお願い申し上げます。

賛助会費： 年間一口3,000円以上お願いできれば幸いです。

郵便振込先： 「風の子会」 口座番号 00150-2-170884

銀行ご利用の方は、下記口座へお願いします。

銀行名： 三井住友銀行 三田通り支店（店番号623）

口座名： 特定非営利活動法人 風の子会賛助会

口座番号： 普通 6864494

賛助会についてのお問い合わせは担当職員 岡本裕介（03-3474-9674）へお願いいたします。

平成23年4月

特定非営利活動法人 風の子会
会長 花田 政國

夕会便り

三月 五日【旅行の行き先について】
今回の旅行は、かんぼ以外でも大丈夫です。
また来週詳細を話します。

十九日【旅行の行き先決め】
沢山候補を挙げてもらいましたので、多数決で数を絞りました。
『かんぼの宿草津』と『富士レークホテル』と『箱根高原ホテル』
の三つです。

二十六日【旅行行き先を絞る】
以前挙げた三箇所の、各々周辺にどんな施設等が在る
かを教えてもらい、其れを踏まえて行き先を決め、
『富士レークホテル』が第一候補となりました。
外に出ようの行き先だった葛西臨海公園は、
交通が不便なため港区に変更しました。来週改めて、
キャッチコピーを決めます。

田村 亮彦



3月9日水曜日。風の子会にフレンド学園の女子高校生二人が来ました。工房と企画の説明をしました。僕は田中先輩と力をあわせて頑張りました。うまく行きました。最後は女子高校生がフレンド学園の話をしてくれました。ありがとうございます。

地震の体験。3月11日金曜日は家にいました。僕はテレビを見てました。その時、地震が落ちて来ました。僕は神棚の所にいたので助かりました。しばらくして兄が帰って来ました。僕を車イスに乗せてまだ会社に戻って行きました。6時30分にすばる介護センターの人が来てくれました。僕を車イスからおろして夕食の準備をして食べました。

かなり風の子会も揺れたそうです。企画部の方は被害はありませんでした。工房の方はテレビの上の時計が落ちたり、水槽のガラスが揺れたりしました。すこし被害が出ましたが皆さんがケガもなく、本当に無事で良かったです。

柳川 敬事。

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第36話 イチの卒業を祝って（今回もまだ中編）

ホテルに戻ると慌ただしくスーツに着替える。夕食を予約したレストランにはドレスコードがあり、身なりを整えなくてはならないのだ。「リクルートスーツしか持ってないんだけど、いいのか?」「いいんじゃないの」「僕なんか入学式のときに着たやつですよ」イチとヒロセがあたふたしながら着替えをしている姿を見つつ「似合ってるよ」と笑いを抑えながら僕は言う。言いながら僕も着替えをまとめ、マルボロを啜っていると「ヅカシどう? 変じゃない?」と不安げな顔をしながらドレスを纏ったトモが部屋から出てきた。いかげんなシャツに汚れきったデニム姿のトモに見慣れ過ぎていたせいか、あまりの変わりぶりにマルボロを落としそうになる。「ま、まあ、悪くないんじゃないか?」指でマルボロをしっかりと掴みながら言う。「でもこれ夏用だからちょっと寒いかも・・・」「店内はあったかいだろうし、行くまではコート着てればいいだろ」「じゃ、借りるね!」言いながら当然のように僕のコートを手取る。

それぞれに着替えを終えて、レストランに向かう。部屋からレストランまでは長い渡り廊下を通らねばならず、しかもそこはガラス張りになっていて外の景色を眺める事ができるような造りになっているので日が暮れてくるとけっこう冷える。「ヅカシのコート借りて正解だったね」「それはよかった」ドレスの上から僕のピーコートを覆っているトモの姿を眺めるとするのは、なんだか不思議な気分だった。渡り廊下を渡りきり、レストランへと上がるエレベーターに乗る。エレベーターに乗った段階でイチはすでに緊張感がマックスのようだ。「こういう店行くの、慣れてないからな」「俺だってそうだ。ま、今夜はおまえの卒業祝いなんだ。腹くくれよ」額にうっすらと汗が浮き出ている彼を見て笑いを抑えながら僕は言う。そしてエレベーターはホテルの最上階へと着いた。

レストランに入り、予約していたテーブルに向かう。窓際の席で蓼科湖が一望できる。日が完全に沈むまであと少しという時間で、湖は赤く映えている。「わあ、きれい!」「ぎりぎり間に合ったな」「夕焼けですね」「壮観だな」それぞれに感想を言いながら席に着く。コース料理をあらかじめ頼んでいたの、自動的にオードブルから順に配膳されていく。食前酒を手にとって乾杯の音頭を取る。「んじゃまあ、イチの卒業祝いってことで、何か言えよ」「俺が? なにも用意してねえぞ」「何でもいいんだよ」「・・・ったく」言いながらもイチは少し背筋を整える。「えー、今日はわざわざこんな席を作ってくれて本当にありがとう。正直に言って無理かなと思ってたんだけど、なんとか無事に卒業に至る事ができました。思えば大学1年目は・・・」「長くなりそうなので乾杯!」「ですね」「イチ卒業おめでとー!」「・・・おい・・・」4人でグラスをカチリと合わせて、オードブルに手をつける。

「4月からは、どうするんだ?」舌平目のムースを切りながら訪ねる。慣れない料理にてこずりながらイチは応える。「町田あたりにアパートを探してる。しばらくはバイトでつなぎながら今後のことを考えていくさ」「そっか・・・」「ヅカシこそ、どうなんだよ?」泡のきれかけているビールグラスを眺めながら考え込む。「どうすっかなあ・・・」「大丈夫かよ?」やや怪訝な顔をしながらイチは言う。グラスの残りを空けながら「必死に卒業を目指すしかないだろ」と返すことしかできなかった。

～ まだ続くのかよ? ～

僕の生い立ち

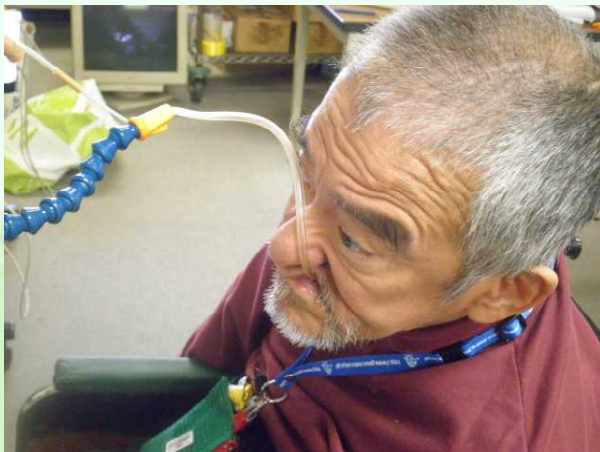
第六話

そんな中僕は「青い芝の会」に入会したのだが、まだそんな器でもないのに役員になりたかったのだ。母は、そんな僕にこう言った。

「稔は役員になりたいらしいけど、貴方は、まだ、早いと思うわよ。でも稔、私は今にどこかの会で、貴方を必要とするところが

きっと出て来ると思うわよ。」自分の母を誉め

るわけではないが、母は非常にやる気にさせることがうまい人だった。だからいつも、僕はいい意味で母にだまされ続けていたのである。そんなある日の夜、母は僕にこう切り出したのである。「稔これから貴方は大人になると、女の子が好きになると思うの。そして貴方だったらその娘と



結婚出来ると思うわよ。」今考えてみると母は、この頃から僕の将来がわかっていたのかも知れない。

太田 稔

※ 太田稔さんの連載は、和栗さんの連載同様、一月毎の掲載となりました。何卒ご了承下さい。



スケジュール

5月14日、全体集会

5月22日、外に出よう。

5月29日、外に出よう
予備日

私は、もう二度と聞かないと思い、また聞きたくもなかった、言葉が、またも聞かされるとは、思いもよらぬことであつたのだ。その言葉、私が子供の頃から青春の頃まで、あり悪夢のような戦時中の言葉で標語でもあつた、それが東日本大震災で非常時日本である。非常時と言う言葉、まさに重大な最悪の出来事が起きた時だけに使う言葉なのである。だからこそ、今度の放射能物質の流失には日本の国民は憤りお感じている。こんなことは二度と起こしてはいけないのである



和栗 顕太郎

僕が今いちばん心配しているのは、原発事故による放射能汚染です。(この号が出る頃には、解決していればいいのですが)僕がこんなに心配したことは、滅多にありませんが、今度ばかりは心配せざるおえません。生きていると何が起こるか分からないものだと思います。

太田 稔

さくら、サクラ、
は春の強風に耐え
て咲き誇っていた。
今年は一休みした。
今年も一杯咲いた。
本人を励ましてきた
さいね。

太田 圭子

ひとりぼっちの障害者をなくそう
特定非営利活動法人・風の子会
 ~定価40円~

編集者
 柳川 吉田 右田 松本 田中 小野 太田 圭子
 敬事 代子 久磨 恵司 聡航
 和栗 顕太郎
 幸木 三田 佐久間 直亮
 郎史 人彦 庸稔

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

